

## コロナワクチン、国の助成終了 今秋の高齢者向け定期接種から負担増

2025/04/11 朝日新聞

65歳以上の高齢者らが対象の新型コロナウイルスワクチンの定期接種に対する国の助成が、今秋からなくなる。厚生労働省の担当者は「感染状況が落ち着いていたことや、ワクチン接種が低調だったため」としている。

厚労省が10日、自治体に伝えた。1万5千円ほどの接種費用を7千円ほどに抑えるため、1回あたり8300円を自治体に助成していた。

新型コロナワクチンは、2023年度までは全額公費負担で接種されていた。24年度に65歳以上や重い基礎疾患がある60～64歳を対象にした定期接種となった。接種者の自己負担が増えるため、一部費用を助成していた。

国とは別に独自に補助を出している自治体はあるが、秋から始まる25年度の定期接種では、接種者の自己負担が増えそうだ。一方、生活保護を受給している人など低所得者が無料で接種を受けられる措置は続くという。（土肥修一）

### 新型コロナワクチン定期接種 今年度から国の助成金取りやめ 自己負担額最大で1万5000円に

2025/04/11 TBSニュース



TBS NEWS DIG Powered by JNN (TBS NEWS DIG Powered by JNN)

65歳以上の高齢者などを対象とした新型コロナウイルスワクチンの定期接種について、厚生労働省が国の助成金の支出を取りやめることが分かりました。

新型コロナワクチンの「定期接種」は、65歳以上の高齢者と、重い基礎疾患を持つ60歳から64歳までの人が対象で、今年度は10月から始まります。

これまで、ワクチン接種の自己負担額は国の助成金により最大でおよそ7000円でしたが、厚生労働省は今年度の定期接種から助成金の支出を取りやめます。

自治体独自の補助により、実際の自己負担額は市町村で異なりますが、最大で1万5000円ほどの自己負担が生じる可能性があります。

「定期接種」の対象ではない人が接種する場合は、これまで同様、原則として全額自費となる「任意接種」となります。